様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｈ００７８３

研究課題名（和文）ディアスポラの記憶と想起の媒体に関する文化人類学的研究

研究課題名（英文）Anthropological Studies on Memory of Diaspora and Media for Remembering

研究代表者
岩谷　彩子（IWATANI, AYAKO）

京都大学・人間・環境学研究科・教授

研究者番号：９０４６９２０５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ユダヤ人とロマ／「ジプシー」という移動と離散を余儀なくされてきたディアスポラ共同体を例に、彼らが用いる想起の媒体を通して共同体の枠組みが想起される契機を考究するものである。彼らの想起の媒体は、それぞれが置かれた環境に応じて異なる様式を取り込みながら、あるいは過去のみならず未来の潜在的な可能性をたたみこみながら〈現在〉を創出してきた。さらに、共同体の起源やトラウマ的な出来事を一元的に想起させることの困難さを通して、想起の媒体は逆説的に他者とのつながりを生み出し、ディアスポラ共同体の生成と持続を支えていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ユダヤ人とロマ／「ジプシー」は、前者は文字文化、後者は口承文化が強調され、そうした違いが国家建設を含む共同体の想起のあり方を左右するとみなされ、彼らに対する反感や抑圧の一因にもなってきた。しかしさまざまな想起の媒体を通した実践を精査すると、どちらの共同体にもナショナリズムに通じる連帯の動きがみられる一方で、起源に収斂しない想起も生まれていた。共同体にとってのトラウマ的な出来事や単一の起源を想起することの困難さは逆説的につながりを喚起し、ディアスポラ共同体の持続と生成を支えていたのである。この点は、異なる社会背景のもとで転置を経験してきた人々に広く共通する、共同体の創出の契機として考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study attempts to illuminate the occasions for the diasporic communities to remember the framework as a community through the media of remembering, by examining the cases of the Jews and the Roma/ “Gypsies”, the diasporic communities which were forced to migrate and disperse. Their media of remembering have created the “present” by absorbing different styles depending on their surroundings or folding potential future possibilities as well as the past. Furthermore, people are connected by the very difficulties of remembering unified origin or traumatic events of the communities through the media of remembering, which support the genesis and continuity of the communities.

研究分野：文化人類学

キーワード：想起　記憶　媒体　ディアスポラ　共同体　ロマ　ユダヤ人

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

文字をもたず口承で自らの社会的な境界を築いてきたロマ／「ジプシー」は、現在志向型の時間観をもち、「歴史をもたない」人々と称されてきた。この点は、同じく世界に離散したディアスポラであるが、文字と国家をもつユダヤ人と対照的に論じられてきた。このように「声の文化」と「文字の文化」を分ける思考［オング 1991］は、前者を「未開」に、後者を「文明」に位置づけるとともに、共同体を想起する媒体の種類によって、集団の時空間観および共同体のあり方が規定されることを示唆するものであった。本研究では、世界中に離散し、差別や迫害を受けてきた人々が、いかにさまざまな想起の媒体を通して共同体を維持・生成してきたのか、異なる地域のロマ／「ジプシー」、ユダヤ人社会を事例に、共同研究を通して明らかにすることを目指すものであった。

２．研究の目的

本研究の目的は、ユダヤ人とロマ／「ジプシー」という移動と離散を余儀なくされてきたディアスポラ共同体を例に、彼らがもちいる想起の媒体（音楽、アート、写真、建造物、衣装、博物館やインターネット上のアーカイヴなど）を通して共同体の枠組みが想起される契機を考究するものである。人の移動が活発化し帰属が多様化する現代社会において、想起の媒体が喚起するさまざまなつながりの場について検討することは、狭義のディアスポラのみならず、流動的な環境で自らの帰属を求める人びとにとっての共同体のあり方を提示してくれる。

３．研究の方法

本研究では、研究代表者と研究分担者４名及び連携研究者２名が、異なる地域のロマ／「ジプシー」（フランス、オーストリア、ルーマニア）とユダヤ人（イスラエル、アメリカ合衆国）の間での参与観察、共同体の歴史を展示する空間（博物館、美術館、アーカイヴ、式典）での現地調査と資料収集を行い、年に数回開催される研究会で研究成果を共有することで、ロマ／「ジプシー」およびユダヤ人の共同体の生成と維持のあり方を比較検討した。また、ロマ／「ジプシー」とユダヤ人のみならず、土地を奪われた経験をもつ日本のアイヌの人々や広島の被爆者、移民についても、北海道と広島での共同調査と研究会、さらには最終年度に開催した国際シンポジウムで比較し、ロマ／「ジプシー」およびユダヤ人による共同体の記憶構築の特徴について考察した。

本研究では、第一に、共同体の想起にもちいられる媒体が個人と集団を結ぶはたらきに着目した。語りによる想起は、トラウマ的な出来事を「解毒」し［高木 1996］、出来事に「始まり」と「終わり」を挿入し「物語化」してしまいかねない。本研究では、想起にもちいられる媒体に着目することで、記憶を個人や集団に還元する視点を回避し、異なる媒体がいかに人の相互行為を促しネットワークを構築したり解体したりする行為や関係性の結節点になっているのか、アプローチすることを目指した。異なる媒体がもつ物質的な特徴にも留意しながら、ものが共同体としての記憶を、個人や集団にうながす契機や過程について探求した。

第二に、想起の構築主義的な議論にとどまらず、想起に抗う記憶から共同体の生成メカニズムについて考察した。1980 年代以降興隆する集合的記憶論においては、集団は共有された記憶の枠組みにもとづいて集団の成員が行う想起によって構築されるものとされてきた。集合的記憶論は、記憶の枠組みを構成する「記憶の場」をめぐるポリティクスに関する議論を活発化させたが、そこでは個人が容易に想起できない次元（例：トラウマ、忘却、誤記憶）や沈黙、いわば想起の困難さがもつ可能性について十分議論されているとはいえなかった。本研究では、想起にもちいられるものが、共同体の起源や迫害の歴史についての想起を困難にさせることで、いかなる共同体の記憶が形成されているのかについて探求した。

４．研究成果

ユダヤ人とロマ／「ジプシー」は、前者は文字による文化、後者は音楽などの口承文化が強調され、そうした媒体の違いが国家建設を含む共同体の想起のあり方を左右すると考えられてきた。

しかし、イスラエルにおけるモニュメントやアートを研究する宇田川の研究が明らかにしたように、ナショナリズムを喚起するモニュメントがある一方で、近年は起源やトラウマ的な体験を一元的に国家や集団に還元しない記憶のあり方を模索する、ユダヤ人によるアートが生まれている。アートで喚起されるディアスポラの記憶は、ユダヤ人のみに閉じているわけではなく、イスラエルに流入する移民たちをも取り込みながら拡張している［Gil 2023］。また黒田の研究で明らかになったように、ユダヤ人の結婚式やコミュニティの集まりで奏でられてきたクレズマーは、行く先々の異なる音楽要素を取り入れて成立した混淆的な音楽であり、新世代のクレズマー・バンドはユダヤ性やホロコーストの記憶に収れんしない表現を模索している。

また本研究は、エスニック・マイノリティとしての権利を掲げた近年のロマ・アクティビズムや、ロマの独特な時空間のとらえ方にも焦点を当てた。従来、集団ごとに離散的なロマは、集団

全体としての連帯はまれで、共同体の起源について関心をもたないとされてきた。しかし、岩谷が研究した、1990 年代以降ルーマニアのロマの間で多く見られるようになった御殿のような家屋や、彼らが従事するマネレという音楽は、単なる彼らの刹那主義を示すものではない。異なる様式の折衷がみられる家屋や音楽は、彼らが過去のトラウマ的な体験や、未来に起こりうる変化をたたみこんだ〈現在〉を創出している動態を示しており、社会環境の変化に彼らが適応してきた痕跡となっている。また、滝口が明らかにしているように、1990 年代以降、オーストリアのロマの間では、個人や下位集団ごとに異なっていたロマ音楽を再編し、集合的なロマ音楽を創出する動きがみられる。また、左地が明らかにした 2000 年代後半以降活発化しているロマの現代アートの動きは、特に西欧諸国でみられるようになったロマのホロコーストのコメモレーション運動とも連動しているものの、表象を通して一元的なロマの連帯がはかられているわけではなく、そこで喚起される個々人の想起の機会が共同体の創出につながっている。

本研究は、2019 年～2021 年にかけて、新型コロナウイルスの世界的流行により海外調査を行うことが不可能となり、研究の大幅な遅延を被った。しかし、その間も広島では平和記念資料館で資料収集を行い、被爆三世代の方を迎えての研究会と現地調査を実施し、北海道ではアイヌ文化にたずさわってこられた人々への聞き取りと、アイヌ関連の博物館での資料収集を行い、研究会を開催した。その結果、異なる社会背景のもとで転置を経験してきた人々に共通する共同体の想起のあり方と、ユダヤ人およびロマ／「ジプシー」に特徴的な共同体の想起のあり方について、考察することができた。

本研究の総括として、2023 年 3 月 28 日には、被爆三世代にあたる音楽評論家の東琢磨氏、イスラエル、ドイツ、オーストリアから、ユダヤ人とロマのアーティスト（写真家、音楽家、モダンアーティスト）を招聘し、本研究の研究成果をまとめる国際シンポジウム、Diasporic Memory, Art for Survival: Music and Art of the Jews, the Roma and the Atomic Bomb Survivors in Hiroshima を開催した。異なる社会・歴史的な背景のもとで、異なる媒体を通した想起の諸実践を比較検討することにより、ディアスポラの想起の媒体が導き出す共同体のかたちが明らかになった。それは、単一の領土や起源や共同体像でも、分散的な集団の記憶でもなく、むしろ起源の見えなさ、トラウマ的な出来事を共有することの不可能さ、いわば想起の困難を共有することで喚起されるつながりであった。そうしたつながりこそ、ディアスポラ共同体の持続と生成を支えていることが明らかになった。

＜参考文献＞

オング、ウォルター、J.、1991、『声の文化と文字の文化』（林正寛・糟谷啓介・桜井直文訳）、藤原書店。

高木光太郎、1996、「身構えの回復」、『想起のフィールドー現在の中の過去』（佐々木正人編）、新曜社、219-240 頁。

Gil, Yefman, 2023, “History, Memory and Imagination: Kibbutz Buchenwald and its Unfolding Texture”, presented at the International Symposium, *Diasporic Memory, Art for Survival: Music and Art of the Jews, the Roma and the Atomic Bomb Survivors in Hiroshima*, 28th March, Kyoto University.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計16件（うち査読付論文　9件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 宇田川 彩	４．巻 84
２．論文標題 「順番」と物語ーブエノスアイレスの世俗的ユダヤ人が経験する過ぎ越し祭	５．発行年 2019年
３．雑誌名 文化人類学	６．最初と最後の頁 262～280
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.84.3_262	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 黒田晴之	４．巻 3419
２．論文標題 阪井葉子『戦後ドイツに響くユダヤの歌』、戦後ドイツはユダヤをいかに想起したか、ポピュラー音楽の視点から光を投げかける	５．発行年 2019年
３．雑誌名 図書新聞	６．最初と最後の頁 6～6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岩谷彩子	４．巻 10
２．論文標題 序　共同体を記憶する―ユダヤ／「ジプシー」の文化構築と記憶の媒体	５．発行年 2018年
３．雑誌名 コンタクト・ゾーン	６．最初と最後の頁 225-239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 宇田川彩	４．巻 10
２．論文標題 家の記憶と家族の物語―アルゼンチンの世俗的ユダヤ人における記憶の場と継承	５．発行年 2018年
３．雑誌名 コンタクト・ゾーン	６．最初と最後の頁 276-304
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 黒田晴之	4．巻 10
2．論文標題 クレズマー、あるいは音の記憶の分有ークレズマー・リヴァイヴァルまでの道のり	5．発行年 2018年
3．雑誌名 コンタクト・ゾーン	6．最初と最後の頁 305-335
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 左地亮子	4．巻 10
2．論文標題 物語化に抗する沈黙とアーカイヴ―フランスのジプシー共同体における二種の記憶行為をめぐる考察	5．発行年 2018年
3．雑誌名 コンタクト・ゾーン	6．最初と最後の頁 240-275
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩谷 彩子	4．巻 94
2．論文標題 起源から遠く離れて	5．発行年 2020年
3．雑誌名 宗教研究	6．最初と最後の頁 29～56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20716/rsjars.94.2_29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩谷彩子	4．巻 2
2．論文標題 境界線をもたない生き方―複数を志向するロマの世界	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ACADEMIC GROOVE	6．最初と最後の頁 5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩谷彩子	4．巻 37
2．論文標題 表面的音楽－ルーマニアのマネレがつなぐ世界	5．発行年 2021年
3．雑誌名 arts/	6．最初と最後の頁 26-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 滝口幸子	4．巻 27(5)
2．論文標題 Lovara in Osterreich-Ihr Wurzel und Entdeckungsprozess	5．発行年 2020年
3．雑誌名 城西国際大学紀要	6．最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 左地 亮子	4．巻 86
2．論文標題 身体的現れの政治ーフランスのジプシー巡礼祭を事例に	5．発行年 2021年
3．雑誌名 文化人類学	6．最初と最後の頁 477～487
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.86.3_477	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 黒田晴之	4．巻 26
2．論文標題 ダガーニが描いた3点の花の絵 ―ホロコーストをめぐる表現を考える例として（1）	5．発行年 2021年
3．雑誌名 港（ナマール）	6．最初と最後の頁 30-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 黒田晴之	4．巻 26
2．論文標題 書評『ヘブライ文学散歩』	5．発行年 2021年
3．雑誌名 港（ナマール）	6．最初と最後の頁 101-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 左地亮子	4．巻 60（1）
2．論文標題 ホロコーストを想起する―ロマ・ディアスポラ共同体の新たな想像をめぐる考察	5．発行年 2022年
3．雑誌名 東洋大学社会学部紀要	6．最初と最後の頁 95-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 左地亮子	4．巻 26
2．論文標題 主体化と主体の自由を再考する ―現代フランスを生きるマヌーシュ女性の民族誌から	5．発行年 2023年
3．雑誌名 白山人類学	6．最初と最後の頁 139-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 黒田晴之	4．巻 27
2．論文標題 ダガーニが描いた3点の花の絵 ―ホロコーストをめぐる表現を考える例として（２）	5．発行年 2022年
3．雑誌名 港（ナマール）	6．最初と最後の頁 46-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計44件（うち招待講演　15件／うち国際学会　10件）

1．発表者名 岩谷彩子
2．発表標題 記憶の場、その表層におけるつながりと断絶―ルーマニアのロマの家屋と音楽の事例より
3．学会等名 「ダイナミズムとしての生－情動・思考・アートの方法論的接合」研究会
4．発表年 2019年

1．発表者名 岩谷彩子
2．発表標題 離散の歴史を生きるということ―ヨーロッパのロマにみられる空虚（void）の表象・過剰の表出
3．学会等名 「差別から見た日本宗教史再考」研究会
4．発表年 2019年

1．発表者名 岩谷彩子
2．発表標題 ロマの進行形アーカイブとしてのちぐはぐな住居
3．学会等名 京都市立芸術大学芸術資源研究センター第28回アーカイブ研究会（招待講演）
4．発表年 2020年

1．発表者名 岩谷彩子
2．発表標題 過剰なる建築と音楽―ルーマニアのロマ御殿とマネレにみられる共同体の記憶
3．学会等名 第9回ロマ・ジプシーシンポジウム（招待講演）
4．発表年 2020年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 『ジプシー』の可視化と新人種主義
３．学会等名 人文研アカデミー2018「人種神話を解体する―可視性と不可視性のはざまで」出版記念連続セミナー第3回＜新人種主義の現在＞（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Ayako Iwatani
２．発表標題 Beyond the Life for the Present: Search for Belonging in Romani Palaces in Romania
３．学会等名 Annual Meeting of the Gypsylore Society（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 ヘビがもたらす感覚変容―カールベリヤーの旋回舞踊とその生活世界より
３．学会等名 日本南アジア学会30周年記念連続シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 ヴァーチャルな居住空間―ルーマニアのロマ御殿における想像力と桎梏
３．学会等名 現代人類学研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 ジプシー芸能と女性
３．学会等名 ロマフェスト第８回ロマ・ジプシーシンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 左地亮子
２．発表標題 アーカイヴ＝イメージの力をインターネット上の記憶の場から考える―フランスにおけるジプシーのコメモラシオン運動を事例に
３．学会等名 現代人類学研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 表面的音楽―ルーマニアのマネレがつなぐ世界
３．学会等名 第36回民族藝術学会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Ayako Iwatani
２．発表標題 Romani Castle as (Im)mobile Architecture
３．学会等名 IUAES 2020（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 ロマにおける≪Home≫と帰属意
３．学会等名 ワタン研究プロジェクト 2020年度第1回ワークショップ（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 トラウマ的記憶を想起する―表象の限界を超えて
３．学会等名 2020年度第4回「ディアスポラの記憶と想起の媒体に関する文化人類学的研究」研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 左地亮子
２．発表標題 ジプシー巡礼祭に立ち現れる「市民の共同体」:〈政治〉を民族誌的に問うための試論
３．学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 左地亮子
２．発表標題 Dikh He Na Bister（見て、忘れるな）―過去の到来に開かれる身体経験としてジプシー／ロマの想起の諸実践を考える
３．学会等名 2020年度第1回「ディアスポラの記憶と想起の媒体に関する文化人類学的研究」研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 左地亮子
２．発表標題 「ジプシー巡礼祭」における身体・モビリティ・マテリアリティーストーリーを横切る「空間の偶然性」に着目して
３．学会等名 国立民族学博物館共同研究「モビリティと物質性の人類学」研究会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 左地亮子
２．発表標題 フランスにおける身分登録技術の発展
３．学会等名 エスニック・マイノリティ研究会第86回研究会／身分登録研究ワークショップ
４．発表年 2021年

１．発表者名 黒田晴之
２．発表標題 ダガーニの描いた3点の花の絵―ホロコーストの美術・文学・音楽をどう考えるか？
３．学会等名 2020年度第２回「ディアスポラの記憶と想起の媒体に関する文化人類学的研究」研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 黒田晴之
２．発表標題 ダガーニの描いた3点の花の絵
３．学会等名 神戸・ユダヤ文化研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Ayako Iwatani
２．発表標題 Beyond Vendetta: Romani Conflicts over Female Virginity
３．学会等名 2021 Annual Meeting of the Gypsy Lore Society and Conference on Romani Studies（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 失われたロマ／『ジプシー』を求めて　『ラッチョ・ドローム』にみる『ジプシー』表象の光と影
３．学会等名 「トランスナショナル時代の人間と「祖国」の関係性をめぐる人文学的、領域横断的研究」ロマ／「ジプシー」映画WS第1回（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 HomeとHomelandのはざまで響く音楽ー『ジプシー・キャラバン』におけるアーティストたちの描写より
３．学会等名 「トランスナショナル時代の人間と「祖国」の関係性をめぐる人文学的、領域横断的研究」ロマ／「ジプシー」映画WS第2回（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 左地亮子
２．発表標題 「ジプシー・キャラヴァン」の民族誌的考察―フランスにおけるマヌーシュとロマ移民の二種の移動をめぐって
３．学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 左地亮子
２．発表標題 身体の距離が「社会的なもの」になる時－フランスのジプシー・マヌーシュの民族誌を通して考える
３．学会等名 第 16 回人類学関連学会協議会合同シンポジウム 「ソーシャルディスタンス」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 左地亮子
２．発表標題 ジプシー／ロマの新たな共同体構築と想起の媒体に関する考察―現代ヨーロッパにおけるコメラシオン運動と新宗教運動に注目して
３．学会等名 2021年度第1回「ディアスポラの記憶と想起の媒体に関する文化人類学的研究」研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 滝口幸子
２．発表標題 オーストリアのロマの音楽に見る記憶の断片と集合ーロヴァーラの音楽を事例として
３．学会等名 2021年度第2回「ディアスポラの記憶と想起の媒体に関する文化人類学的研究」研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 宇田川彩
２．発表標題 ユダヤ・ディアスポラ論再考
３．学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 スクラップ・アンド・ビルドされつづける共同体のために―ギリシャの「ジプシー」がつくりだすホーム、故郷、起源
３．学会等名 京都歴史学工房（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 放浪人種と呼ばれて―ヨーロッパの定住主義とロマ
３．学会等名 文部科学省 WWL(ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 アイヌ研究と交錯するディアスポラ研究の現在―北海道調査をふりかえって
３．学会等名 2022年度第1回「ディアスポラの記憶と想起の媒体に関する文化人類学的研究」研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 「文化遺産」を問い直す―変化を歌いつぐルーマニアのマネレの事例より
３．学会等名 「生きる文化遺産」研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 岩谷彩子
２．発表標題 解題『官能の人類学―感覚論的転回を超えて』
３．学会等名 京都人類学研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 Ayako Iwatani
２．発表標題 When ‘Vagrants’ Returned Home: Untranslatability of ‘Gypsies’ from Colonial to Post-Colonial India
３．学会等名 AAS（Association for Asian Studies）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Ayako Iwatani
２．発表標題 Manele or Gypsy Music as Interface
３．学会等名 Musicology Colloquium “Between Pop and Folk”（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Ayako Iwatani
２．発表標題 Singing beyond the Present: Manele or Sharing the Transient Present among the Romanian Roma
３．学会等名 International Symposium ”Diasporic Memory, Art for Survival: Music and Art of the Jews, the Roma and the Atomic Bomb Survivors in Hiroshima”（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 左地亮子
２．発表標題 神以外の「一なるもの」に抗することーフランスのジプシー・ペンテコステ運動における個と共同性をめぐる考察
３．学会等名 第56回日本文化人類学会研究大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 左地亮子
２．発表標題 ホロコーストを想起する―ロマ・ディアスポラ共同体の新たな想像をめぐる考察
３．学会等名 2022年度第1回「ディアスポラの記憶と想起の媒体に関する文化人類学的研究」研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Ryoko Sachi
２．発表標題 Art That Matters :The Roma Contemporary Art Movement and Diasporic Memories
３．学会等名 International Symposium ”Diasporic Memory, Art for Survival: Music and Art of the Jews, the Roma and the Atomic Bomb Survivors in Hiroshima”（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Sachiko Takiguchi
２．発表標題 Making music from fragmented and assembled pieces of memory: the case of Lovara Roma in Austria
３．学会等名 International Symposium ”Diasporic Memory, Art for Survival: Music and Art of the Jews, the Roma and the Atomic Bomb Survivors in Hiroshima”（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 黒田晴之
２．発表標題 レベティコー東と西のはざまで(Rebetiko: Between the West and the East)
３．学会等名 人間文化研究機構グローバル地域研究プログラム（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 黒田晴之
２．発表標題 トランスニストリアからの告発―アウシュヴィッツ裁判の限界と広がり
３．学会等名 神戸・ユダヤ文化研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 Haruyuki Kuroda
２．発表標題 Under the Musical Umbrellas: Diasporic Scenes of Klezmer Music
３．学会等名 International Symposium ”Diasporic Memory, Art for Survival: Music and Art of the Jews, the Roma and the Atomic Bomb Survivors in Hiroshima”（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Aya Udagawa
２．発表標題 How does Art Make the Past?: Kibbutz Yad Mordechai and Holocaust Monuments in Israel
３．学会等名 International Symposium ”Diasporic Memory, Art for Survival: Music and Art of the Jews, the Roma and the Atomic Bomb Survivors in Hiroshima”（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計10件

1．著者名 久保田 慶一、上野 大輔、川本 聡胤、木下 大輔、白石 美雪、滝口 幸子、長野 俊樹、本多 佐保美	4．発行年 2019年
2．出版社 アルテスパブリッシング	5．総ページ数 296
3．書名 音楽用語の基礎知識－これから学ぶ人のための最重要キーワード100	

1．著者名 滝口幸子（分担執筆）	4．発行年 2019年
2．出版社 アルテスパブリッシング	5．総ページ数 291
3．書名 音楽用語の基礎知識－これから学ぶ人のための最重要キーワード100	

1．著者名 岩谷彩子（分担執筆）	4．発行年 2020年
2．出版社 京都大学学術出版会	5．総ページ数 447
3．書名 アフェクトゥス（情動）―生の外側に触れる	

1．著者名 岩谷彩子（分担執筆）	4．発行年 2021年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 448
3．書名 ジェンダー暴力の文化人類学―家族・国家・ディアスポラ社会	

１．著者名 岩谷彩子（分担執筆）	４．発行年 2020年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 826
３．書名 中東・オリエント文化事典	

１．著者名 宇田川 彩	４．発行年 2020年
２．出版社 世界思想社	５．総ページ数 312
３．書名 それでもなおユダヤ人であることーブエノスアイレスに生きる〈記憶の民〉	

１．著者名 石井美保、岩谷彩子、金谷美和、河西瑛里子	４．発行年 2022年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 296
３．書名 官能の人類学ー感覚論的転回を超えて	

１．著者名 黒田晴之（分担執筆）	４．発行年 2021年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 768
３．書名 中欧･東欧文化事典	

１．著者名 ゼレポス・イオアニス、黒田晴之	４．発行年 2023年
２．出版社 風響社	５．総ページ数 304
３．書名 ギリシャの音楽、レベティコ	

１．著者名 滝口幸子（分担執筆）	４．発行年 2022年
２．出版社 教育芸術社	５．総ページ数 208
３．書名 高校生の音楽１	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ディアスポラの記憶と想起の媒体に関する文化人類学的研究
http://www.remembering.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	宇田川　彩 (Udagawa Aya) (20814031)	東京理科大学・教養教育研究院葛飾キャンパス教養部・講師 (32660)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	滝口　幸子 (Sachiko Takiguchi) (30615430)	城西国際大学・メディア学部・准教授 (32519)	
研究分担者	左地　亮子（野呂） (Ryoko Sachi) (50771416)	東洋大学・社会学部・准教授 (32663)	
研究分担者	黒田　晴之 (Haruyuki Kuroda) (80320109)	松山大学・経済学部・教授 (36301)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	鶴見　太郎 (Tsurumi Taro)		
研究協力者	高木　光太郎 (Takagi Kotaro)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計2件

国際研究集会 東欧ユダヤ人の音楽「クレズマー」をめぐる対話 シェーン・ベイカー氏に聞く、イディッシュ文化と笑い	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Diasporic Memory, Art for Survival: Music and Art of the Jews, the Roma and the Atomic Bomb Survivors in Hiroshima	開催年 2023年～2023年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

カナダ	トロント大学			